

(一社) ふるさとけものネットワーク

鳥獣被害対策における支援組織の育成・提言・ネットワーク化

活動地域  日本全域



獣害対策白書vol.3 発刊！

課題

- 獣害対策の担い手育成 (けものまち医者の育成)
- 農村集落における過疎高齢化して年々厳しくなる獣害対策の体制
- 地域における「けものまち医者」の地位確立

目標

- けものまち医者が認知され、地域に根づく
- 狩猟を通じた都市農村交流のモデル完成と普及
- 手引きや獣害対策白書を活用した行政と市民への理解が広まる

活動内容と成果

- 計画当初から新型コロナウイルスによるオンライン化を余儀なくされたが、すべてのプログラムをオンライン開催に切り替えることにより実施できた。(けもの塾オンライン講座受講者数は延べ28人) 併せて、けもの塾受講生の地域 (4団体: 愛知県・和歌山県・岡山県・島根県) に対してフォロー研修を実施した。けものまち医者が活躍している人数は18地域27人となった。また、野生動物対策技術研究会を実施し、51人が参加した
- 獣害対策白書vol.3を発行し、1,500の市町村に配布した



フォローアップ研修 (鹿柵設置)



今後の展望

まだまだ新型コロナウイルス禍での環境は見通しが立っていないが、オンライン講座などをしっかり販売していくことで収益化を強化したい。また、白書作成の際に、自治体の困り度合いを指標化できたので、重点支援地域に一点突破で支援体制を構築していきたい。

ひろげる助成

3年目

実践

フォロー研修
参加団体数

4団体

白書配布冊数

1,500冊

今年度計画の達成度

60%

目標達成度

70%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

アンケートを実施したが、アンケート結果がこちらの想定と違い、はっきりと言えることが少なかった。社会学などの外部の専門家などの協力を得て、提言をまとめた。

■ 工夫した点

獣害対策の視点だけではなく、地域づくりの視点から農山村の未来の展望や担い手育成について言及した。



集落支援ワークショップ

全助成期間の活動を振り返って

豚コレラという感染症の感染地域拡大から、新型コロナウイルス禍に突入するという外的環境で大きく振り回された3年間であった。講習会等は完全オンライン化を行い、体制を整えることができたが、現地に行っている現場支援ができなくなり、担い手育成事業が失速してしまった。一方で全国の市町村にアンケートを取ってヒアリングを行い、獣害対策白書vol.3を発刊することができた。今後の目指すべき獣害対策を提言していきたい。

〒501-4601
岐阜県郡上市大和町大間見307番地
電話: 050-5276-2555
E-mail: kouzen@metamori.org
HP: <http://furusato-kemono.net/>

